

機関番号：12603

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21820012

研究課題名（和文） ハム仮説の研究—北東アフリカの諸民族との関連を中心に

研究課題名（英文） Study on the Hamitic Hypothesis: With Special Reference to Its Relation with the Ethnic Groups in Northeast Africa

研究代表者

石川 博樹 (ISHIKAWA HIROKI)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教

研究者番号：40552378

研究成果の概要（和文）：19世紀のヨーロッパにおいて、サハラ以南アフリカの人種に関する「ハム仮説」と呼ばれる人種論が成立した。この仮説は、「黒人に比べて優秀なコーカソイドであるハム」がアフリカ大陸中央部の大湖地方を征服していくつかの王国を創始したと説明する極めて人種差別的な人種論であった。本研究においては、ハム仮説の提唱者とされるイギリス人探検家スピークがエチオピアのオロモと呼ばれる民族と大湖地方の王国形成を結びつけた要因を解明し、また19世紀前半のイギリスにおける人種論の展開とスピークの主張との関係を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In the 19th century, Europeans created a racial theory on Sub-Saharan Africa called “Hamitic Hypothesis”. According to it, “Hamites, who were Caucasian and superior to Negroid” conquered the Great Lakes Region in Africa and formed several kingdoms. J. H. Speke (English explorer) is believed to have created this hypothesis. This study reveals the reason why he connected the formations of the kingdoms of the Great Lakes Region in Africa with the Oromo of Ethiopia. This study also reveals the influence of the English racial theories during the first half of the 19th century on the Speke’s hypothesis about the foundation of the kingdoms of the Great Lakes Region.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,080,000	324,000	1,404,000
2010年度	970,000	291,000	1,261,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,050,000	615,000	2,665,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：アフリカ、ヨーロッパ、人種論、ハム仮説、歴史

## 1. 研究開始当初の背景

近代ヨーロッパで構築された身体的特徴に基づく人種論がアフリカ大陸の諸民族にも適用された結果、アフリカ大陸中央部の大湖地方において「優秀なコーカソイドであるハム」が「能力の劣る原住民」を征服していくつかの王国を創始したとする「ハム仮説 (Hamitic Hypothesis)」が生まれた。ルワンダ大虐殺の要因として世界的に注目を集めたハム仮説であるが、その成立過程には未解明の問題が少なくなかった。

## 2. 研究の目的

人種概念が普遍的であるのか否かは議論が分かれるところである。しかし近代ヨーロッパで構築された肌の色、頭蓋骨の形状、身長、頭髪の縮れ具合といった身体的特徴に基づく人種論が、ヨーロッパ人が優等人種であり、アフリカ人が劣等人種であることを前提として構築されたこと、そして大西洋奴隷貿易やアフリカ大陸におけるヨーロッパ人の植民地支配を正当化する重要なイデオロギーとして利用されてきたことは明らかである。

このような人種論はアフリカ大陸の諸民族にも適用され、その中からアフリカ大陸中央部においては「北方起源の優秀なハム系民族」が「能力の劣る原住民」を支配してきたとするハム仮説が生まれた。「ハム」とは 19 世紀のヨーロッパ人がアフリカ大陸北部のセム系住人と中央部のバントゥー系住人の間に居住する諸民族に与えた名称である。中央アフリカの諸王国の形成におけるハム系民族の関与を最初に提唱したのは、1862 年にウガ

ンダのブガンダ王国を訪問したイギリス人探検家スピーク (J. H. Speke) であったとされる。彼はブガンダ王国の支配層に属する人々が、現在では「オロモ (Oromo)」と呼ばれている、エチオピアの「ガッラ (Galla)」という民族に由来すると断定した。その後この説は広く受け入れられるとともに体系化され、1930 年にはイギリスの人類学者セリグマン (C. G. Seligman) が著書の中でアフリカの諸文明は全てハム系民族がもたらしたものと主張するに至った。1923 年からルワンダを統治したベルギーはハム仮説を住民支配に適用し、このことがツチとフツの対立を生み出し、さらには 1994 年の大虐殺を引き起こしたとされている。

先行研究においては、ハム仮説はスピークが提唱したものであること、また彼が 19 世紀半ばのヨーロッパにおける人種論の影響を受けていたことが指摘されている。しかしながら当時スピークがアフリカ北東部の諸民族に関する情報を入手していたのかという問題は検討されておらず、またヨーロッパのいかなる人種論がハム仮説の形成に影響を与えたのかという問題についても実証的な研究は行われていなかった。本研究では、19 世紀前半から 20 世紀前半までを対象とし、「優秀なハム」のモデルとなったアフリカ北東部の諸民族に関する情報、そして当時ヨーロッパで展開していた人種論と、ハム仮説との関わりを解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究では、まず「優秀なハム」のモデルとされたアフリカ北東部の諸民

族のうち、特にエチオピアのオロモに関して 19 世紀前半から 20 世紀前半までの期間にヨーロッパ人が得た情報を収集した。それとともにハム仮説の提唱者とされるスピークが東アフリカで行なった調査のなかでオロモに関していかなる情報を入手していたのかを明らかにした。これとともに 19 世紀前半のヨーロッパ、特にスピークの母国であるイギリスにおける人種論の展開についても調査し、スピークがいかなる人種論の影響を受けてハム仮説を主張するに至ったのかという問題を考察した。

#### 4. 研究成果

平成 21 年度は、19 世紀前半から 20 世紀前半にかけてヨーロッパで刊行された人種論に関する文献、およびエチオピアを訪れたヨーロッパ人の旅行記の収集を行い、それらの内容を分析した。この作業とともに、本研究に関わるフィールド調査をエチオピア連邦民主共和国の北西部および西部において実施した。

平成 22 年度は、19 世紀前半から 20 世紀前半にかけてヨーロッパで刊行された人種論に関する文献の内容を分析した。この作業とともに、スピークが人種論に基づいた大湖地方の王国形成論を構想するに至った要因を解明するため、彼が踏査したウガンダおよびタンザニアにおいてフィールド調査を実施した。そしてこれらの作業の結果得られた知見を基にして、スピークが大湖地方の諸王国の形成とオロモとの関連を主張

するに至った経緯について検討した。

以上の研究によって得られた成果については、以下のとおり公表した。

まず日本アフリカ学会第47回学術大会（2010年5月29日）において、「ハム仮説とエチオピアの「ガッラ」と題し、エチオピアのオロモに関する情報がハム仮説の成立に与えた影響について口頭発表を行なった。

日本オリエント学会第52回大会（2010年11月7日）においては、「ハム仮説とエチオピア — 19世紀中葉イギリスの人種論におけるエチオピア」と題し、19世紀前半にイギリスで主張された人種論とハム仮説との関係を考察した。

第5回帝国史研究会（2011年3月30日）においては、「エチオピアの「帝国」とアフリカ人種論」と題し、ハム仮説を含むヨーロッパ人が創造したアフリカ人種論とエチオピア帝国の関係について発表を行なった。

現在これらの発表を基にした論考を準備しており、学術雑誌において公表する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 3 件）

- ・石川 博樹「エチオピアの「帝国」とアフリカ人種論」第 5 回帝国史研究会（2011 年 3 月 30 日、於武蔵大学〈東京都〉）
- ・石川 博樹「ハム仮説とエチオピア — 19 世紀中葉イギリスの人種論におけるエチオピア」日本オリエント学会第

52回大会（2010年11月7日，於国士  
館大学〈東京都〉）

- ・石川 博樹「ハム仮説とエチオピアの「ガ  
ッラ」」日本アフリカ学会第47回学術  
大会（2010年5月29日，於近畿大学  
〈奈良県〉）

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

石川 博樹 (ISHIKAWA HIROKI)  
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文  
化研究所・助教  
研究者番号：40552378